

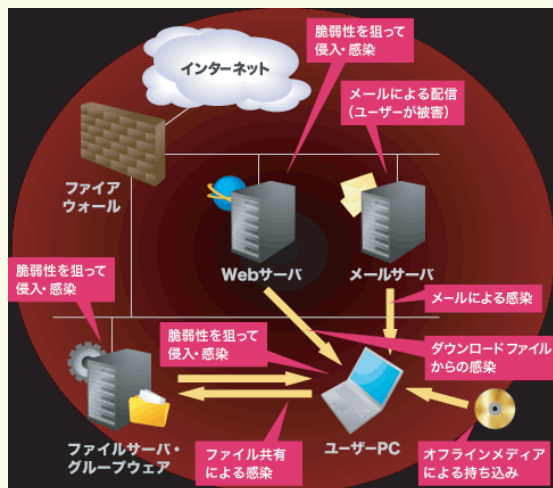
▼有田コンピュータの目的▼

有田コンピュータは「IT事業を通じ地域に貢献する事」

「顧客のパソコンによる業務改善を追求し、互いに利益を創り出し発展していく事」を目的として活動しています。

コンピュータウイルスの基礎知識。

ウイルスの主な侵入経路



1. CDやMOなどの記憶媒体からの感染

最も古典的なウイルス感染経路は、CDやMOなどを使ったファイルの受け渡しによるユーザーPCの直接感染です。ウイルス感染しているパソコンで作成されたCDやMOなどは、特に危険です。

2. メール、インターネット閲覧からの感染

電子メールの場合は一般に、ウイルスを含んだ添付ファイルを開くことにより感染する場合がありますが、最近では、メールソフトウェアの脆弱性などを利用し、勝手に添付ファイルを開かせたり、HTMLメール内のプログラムにより悪意あるサイトにアクセス、またはWebページを閲覧しただけで不正プログラムを自動的にダウンロードして実行するといった手の込んだものも増加しています。

3. ネットワークからの感染

感染経路というよりは手段に近いですが、ネットワーク経由の直接感染という意味で、この方法は最も危険度が高いです。一台だけではなく、接続されているすべてのパソコンが被害にあっている可能性があります。

ウイルス感染の被害

●業務の中断

攻撃により業務が中断すると収益がその分失われることになります。

また、その他にも攻撃されたパソコンの復旧やネットワークの復旧作業の費用が発生し、全体的な損失はさらに大きくなる可能性があります。

ネットワークに感染した場合は、ネットワークに接続しているすべてのパソコン業務が中断することになり、もしお得意様などにウイルスを感染させた場合は、相手方にも同じような被害が発生する事になります。

●企業イメージの低下

企業のブランドイメージはさまざまな形でダメージを受ける可能性があります。例えば、顧客データが盗まれ、それがインターネット上で公表されてしまった場合には、企業が顧客の信頼を回復するのは非常に困難な事態になります。

メールのやりとりなどで相手に感染させた場合など、企業への不信感を招く事になります。

まずは個人の心構えから

不正プログラム（コンピュータウイルス）が日々進化を続けているのに対し、対策が後手に回っている感はありません。新種のウイルスが発見されてから、対策プログラムなどが作られるからです。その時間差は約3時間から5時間だと言われています。その間に新種のウイルスに感染してしまうと、いくらウイルス対策ソフトを導入していても防ぎことはおろか発見することすら出来ないのです。

しかし、個人の心がけで予防出来ることもあります。「まったく知らない差し出し人からのメールは開かない。」、「信頼性のないWebサイトを閲覧しない。また、ファイルをダウンロードしない。」、「ウイルス対策ソフトのファイル更新を定期的に行う」といったことです。ウイルス対策の第一歩は「用心する」という心構えからではないでしょうか。

編集者より：有田コンピュータの今年の営業日は12月28日までとなっております。来年、1月6日から営業を開始します。誠に勝手ですがよろしくお願ひします。（タナカ）